

# 文芸

## 俳句

家康の鷹狩り辿るウオーキング  
池田 逸子  
花ハツ手音符のごとく散りにけり  
伊藤 敬子  
お年玉銀貨よろこぶ幼孫  
伊藤 定男  
初春や初孫ほっぺにチユーひとつ  
今関満喜子  
久々の友と再会雪だより  
魚地 照子  
手の届く限りもの置く炬燵かな  
江森 悦子  
我が丈を超えたる孫の年賀受く  
大谷 武彦  
冬ざるる浜の風紋松の声  
川島 孝夫  
景気良く手締めの際き初の糶  
川島 通則  
即身仏訪ねる寺や落葉敷く  
向後 寛  
新玉の茅の輪に息災唱えつつ  
越川せつ子  
初日の出現在る事の有難き  
越川 福子  
棟上げの七枚袴鳶の冬  
小松 藤男  
枝先を色鳥揺らす空の青  
佐瀬 輝夫  
箇の市三本じめに送らるる  
宍倉 道子

平穩に濃く暮れゆく去年今年  
鈴木とし子  
一日一句この先五年初日記  
鈴木 利子  
襷をばこころで繋ぐ紅葉山  
玉虫 栗扇

初鏡皺の数ほど憂いあり  
土屋美枝子  
初空の光へ和してゆく心  
土屋 義昭

この頃はとんと逢はない嫁が君  
戸村 静華  
豊食に飽きてラーメン三日かな  
西崎さち子  
櫛田の隣りは広き休耕地  
早川 勇

## 短歌

散歩する道に黄の柚子熟れをれど  
腕ぐに届かぬ微妙な高さ  
八角 三枝  
妹と生家の冬を語らへり  
母の吊せる千し柿なども  
青木 秀子  
孫生れて育ちの早きに驚きぬ  
ハケ月はや掴まり立ちす  
押尾 輝子  
殆どの賀状に御無沙汰詫びて書く  
便りのなきは元気の印と  
吉岡 信子  
ヤセらぎの音を聞きつつ栗山川の  
岸辺を今日も独り散歩す  
平山 芳子

幸やはこの位が良いと師は笑み  
小さき四つ葉のクローバー賜ふ  
田崎 尚美  
現し世を離りし夫を思ひつつ  
ひとり見てゐる夕焼けの雲  
芹川 初子

ポーナスが出たと差し出す娘の封筒  
ま先に夫の位牌に供ふ  
鈴木まさ子  
青空を飛び交ふ鳥を見詰めつつ  
あやかりたしと手術待ちらるつ  
池田 春江

新幹線の車窓に見ゆる故郷の  
三島の富士を待ちに待ちらるつ  
西山満里子  
拍子木の音に合はせて暮を曳く  
黒子の足の小走りの足袋  
島田ますみ

犬吠の岬よりいまし昇る日は  
燈台をややに朱に染めゆく  
斉藤つね子

風截りてマラソランナーひた走る  
未来を多く持てる輝き  
越川 義則

終戦の朝出撃し戦友ありき  
運の悪さに言う言葉なし  
鈴木 益郎

淡々と日記家計簿したためぬ  
いづれは塵となりゆくものを  
高梨 キヨ

日溜りに切り千し大根千しおれば  
ひらりと一枚枯葉舞いぐる  
土屋 好



## なぞの旧石器

千葉県ではこれまでに千ヶ所近い数の、旧石器時代遺跡が発見されています。町内でも十ヶ所の遺跡が見つかり、様々な石器が出土しています。その中から今回はなぞの石器を紹介しましょう。

町内から見つかった旧石器時代の石器は、今から三万年前から一万年前の、後期旧石器時代と言われる、旧石器時代最後の時期のもので、その種類はナイフ形石器や槍先、楔形石器などがあります。そのほか、石器を作る材料となる石片（剥片）や、石器を作ったときに出土した破片なども遺跡から出ました。

楔形石器は、石片を石の上に置いて、上から石片を打ち割ると、上下から割れて薄い石器が作られ、形が楔に似ていました。大きさは長さ二センチから大きくても五センチほどです。しかし、この石器がどのような、何に使われたかはその形からは想像できません。一つの遺跡からいくつも出ているので、柄にいくつも着けて使ったのかも知れません。写真は長倉宮ノ前遺跡出土ですが、ほかに鍛冶屋台、寺方など銚子連絡道路建



長倉宮ノ前遺跡から出土した楔形石器